

鷲津砦(国の史跡)(名古屋市緑区大高町鷲津)(鷲津砦公園)

鷲津砦(わしづとりで)は、名古屋市緑区にあった砦。織田信長によって築かれ、桶狭間の戦いの前哨戦が行われた。

沿革

大高城の北東約 700 メートルの丘陵上に築かれ、東西 25 メートル、南北 27 メートルの規模だったという。

尾張で勢力を伸ばしていた織田信秀の死後、子の信長が跡を継ぐと、信秀に従っていた鳴海城主山口教継が駿河の今川義元に寝返り、義元は大高城を手中にした。そこで信長は、鳴海城に対して丹下砦・善照寺砦・中島砦を築き、さらに大高城と鳴海城の間を遮断するために、丸根砦と鷲津砦を築いた。鷲津砦には、守将として織田秀敏と飯尾定宗・尚清父子が置かれた。

永禄 3 年 5 月 19 日(西暦 1560 年 6 月 12 日)早朝、尾張に侵攻した今川軍は鷲津砦と丸根砦に攻撃を開始した。その報せを受けた信長は清洲城から出陣したが、熱田神宮に差し掛かったときには、すでに両砦は落城したらしく、煙が上がっていたという。このとき鷲津砦を攻撃した今川方の武将は『武徳編年集成』等の後世の史料では朝比奈泰能とされているが、泰能は弘治 3 年(1557 年)に死去しているため実際は子の泰朝で、親子を誤ったものと見られている。

その日の桶狭間の戦いで義元は討ち死にして今川軍は尾張から撤退し、今川氏から独立した三河の松平元康との間に清洲同盟が成立したため、鷲津砦が再び使われることはなかった。

現況

大高城・丸根砦と共に 1938 年(昭和 13 年)に国の史跡に指定されており、史跡鷲津砦址の碑が立つ。周辺は鷲津砦公園として整備されている。砦址のある丘陵の麓には長寿寺という寺があり、この寺はもと真言宗長祐寺と称していたが、鷲津砦の兵火により焼失したという。

Wikipedia による



史跡鷲津砦址の碑



鷲津砦址からの眺望